

河川局砂防部  
平成23年3月26日  
13時00分現在

## 「平成23年東北地方太平洋沖地震」「長野県北部の地震」 「静岡県東部の地震」に伴う土砂災害について

### 1. 応急対応

土砂災害の発生状況の把握

【東北地方太平洋沖地震】計46件【死者16名】

【長野県北部地震】計17件

【静岡県東部地震】計3件

合計 66件 【死者16名】(11県もの広範囲で発生)

上記の他、多数の山腹崩壊あり。

上記の他、岩手県沿岸部では山火事による被害あり。

改正土砂法に基づく緊急調査の必要性は無し

- ・「岩手・宮城内陸地震(H20)」や「新潟中越地震(H16)」で天然ダムが発生した箇所については大きな変状なし。
- ・ヘリ調査等の現地調査の結果、新たな天然ダムの発生は見られなかった。

砂防関連施設の点検(資料-1)

直轄事務所 1,952箇所 点検完了

17都県 3,514箇所

(予定箇所4,352箇所のうち、81%の進捗)

- ・県管理施設の一部に変状を確認。

土砂災害危険箇所や砂防関連施設の点検時に変状が見られた箇所については随時応急対策を実施中。

## 2 . 出水期までの対策

土砂災害警戒情報の発表基準の暫定的運用

土砂災害警戒情報の発表基準を通常基準よりも引き下げ、気象庁と連携し、震度5強以上観測した17都県233市区町村において暫定的に運用。地域住民に土砂災害の危険度が高くなる見込みであることを、地震発生前と比較し、きめ細かに周知。

17都県233市区町村の土砂災害危険箇所約4万箇所には約50万人が生活（域内人口約2,300万人）

土砂災害危険箇所等の点検実施

点検の実施にあたっては、TEC-FORCEによる県への支援を実施。

（3月24日現在、震度5強以上を観測した市区町村を有する17都県のうち、積雪等で点検不可能な箇所を除き10県において点検を実施済み（予定箇所約30,830箇所のうち、約2割の進捗））

土砂災害危険箇所等の点検の結果の活用

- ・市町村に点検結果を周知し、円滑な警戒避難の実施に活用。
- ・対策が必要な箇所について、危険な状況に緊急に対処するため早急な対策を実施。

震災による土砂の崩壊、地すべり等により被害が発生した地区において、危険な状況に緊急に対処するための砂防設備等の整備を実施。

## 3 . 抜本的な対策

震災による土砂の崩壊等が発生した一連の地区に対し、出水期までの応急対策に引き続き、再度災害を防止するための抜本的な土砂災害対策を実施。

被災地の復興のため、安全・安心なまちづくりと一体となった土砂災害対策を実施。

土石流危険渓流等の土砂災害の恐れの高い渓流等において、砂防設備等の整備。

## 【技術支援の概要】

日時：平成23年3月19日(土)

場所：栃木県那須烏山市川西地先  
高根沢町上柏崎地先

### 主な支援内容

- ・甚大な土砂災害が発生した箇所における今後の調査及び対策に関する県への助言
- ・住民の円滑な避難に関する観測体制や留意事項に関する県や市町村への助言



川西地先の土砂災害  
(死者2名、人家被害2戸)



現地における調査及び支援の状況



出甲費を予定している。また被害規模の大きい川西及び上栢崎については、国土交通省の緊急災害対策派遣隊（HERO-FORC）が現場に入り調査するなど、技術的な支援を受けた。

支援を伝える新聞

# 危険箇所点検表の一例

B

様式-1 (1)

|   |  |
|---|--|
| (箇所番号 自然斜面・人工斜面 )<br><b>危険箇所の点検表 (緊急調査)</b>   |  |
| 班名: <u>                    </u> 天候: <u>B晴天</u><br>作成日: <u>平成21年8月13日 19時00分</u>   |  |
| 調査項目<br>① 自然斜面 ② 切土のり面 ③ 盛土のり面  | 調査箇所<br>① 自然斜面 ② 切土のり面 ③ 盛土のり面   |
| 下点標高<br>21 斜面の高さ<br>22 斜面の長さ  | 地区 (危険箇所、その他の傾斜地)<br>高さ 60 m 勾配 5.3 度  |
| 23 原因<br>24 状況  | ( ) ( )<br>① 有り ② 無し<br>③ 転石、浮石が多い ④ 亀裂が多い岩盤 ⑤ 落ちかいた砂<br>⑥ 凍結 (自然・人工) ⑦ 竹林 ⑧ 樹木 (高、低) ⑨ その他                |
| 25 調査項目   |  |
| ① 斜面崩壊の有無<br>② 斜面中上部の崩壊や陥没、開口亀裂<br>③ 斜面下部の崩れみや、のり面陥没等のほらみ<br>④ のり面への小落石や、斜面内の転石・浮石 (径 30 cm程度)<br>⑤ 小崩壊、肌落ち、オーバーハング等<br>⑥ 湧水量の増加、減少等 <sup>1)</sup><br>⑦ 新根の湧水箇所発生、湧水色の変化 (色) <sup>2)</sup><br>⑧ インピンポイントの有無<br>⑨ 防護施設の現状 ( )<br>⑩ その他施設の現状 ( )<br>⑪ 家庭被害 (全壊 戸、半壊: 戸) | ( )・無<br>( )・無<br>有・無<br>( )・無<br>有・無<br>有・無<br>有・無<br>( )・無<br>( )・無<br>( )・無<br>有・無<br>有・無<br>有・無<br>有・無 |
| 26 調査結果<br>A B C  |  |

未確認  
(存疑)

湧水痕  
跡あり

\* 地震発生直後(約20分後)に崩壊、当時は土砂降り、  
 \* 崩壊初期中段に湧水痕があり、直後の崩壊時の段階に伴う  
 多量の湧水とインピンポイントが確認された。  
 \* 住民談によると崩壊直前付近から掘削方向に亀裂が確認されたが、  
 崩壊直前までには確認できなかった。  
 \* 崩壊後も深く、更に大規模に崩壊が進行するとは無いため、  
 谷底には降雨時には斜面を覆った湧水(湧石等)に注意が必要、  
 70cm程度の湧水あり。

注1) 崩壊の状況やインピンポイント等からできる限り詳細な調査を実施する。  
 注2) 崩壊の状況やインピンポイント等の発生状況を総合的に判断する。  
 注3) 崩壊の状況やインピンポイント等の発生状況を総合的に判断する。

様式-1 (2)

危険箇所の点検表 (緊急調査)

(箇所番号 )

◎スケッチ、地形図等 (危険箇所カルテのスケッチ、地形図を活用して記載、保全対象に  
 被害が認められた場合には、その状況も記載すること)

\* 地震発生直後約20分後に  
 崩壊、発生時は土砂降り

◎現地写真 (危険箇所カルテと同アングルのものが望ましい。著しい変状があった場合にはその写真も貼付すること)

